

## 第1回太子町地域公共交通検討委員会 会議概要

日 時：平成29年7月11日（火） 14時00分～16時00分

場 所：太子町役場4階 全員協議会室

### 議 題

- (1) 太子町の公共交通等の現状について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) アンケート調査について（骨子案）
- (4) その他

(1) 太子町の公共交通等の現状について

(2) 今後のスケジュールについて

事務局

(資料3・4・5に基づき、事務局より説明)

会 長

公共交通の現状把握については今後、基本計画にどのように反映するのか。

事務局

今、お示しした資料はまだ粗いものとなっているため、もう少し精査したものを基本計画に盛り込む予定としている。

第2回目の委員会の予定としては、具体的なアンケート調査票を作り、それについて検討していただきたいと考えている。

会 長

資料4にある太子町地域公共交通基本計画と次の地域公共交通網形成計画の策定の違いはどういったものか。

事務局

大きな違いとしては、今回策定する太子町地域公共交通基本計画については太子町におけるあり方という基本的な方針を定めるもので、どういった交通のあり方が良いのか、例えばデマンド型バスが良いのか、路線バスを増やしたほうが良いのかなど、ある程度こういうものがあつたほうが良いのではないかとすることを定める予定としている。一方、来年度以降に地域公共交通網形成計画を策定するための法定協議会を設置する予定としているが、それに関しては基本計画をもとに、実際にはどういう路線で走れば良いのかなどより具体化したものを検討し、実証運行も含めた会議になると考えている。

会 長	実証運行の予定は2年後と考えておけばよいのか。
事務局	実際に実証運行までいくかどうかということもあるが、早ければ2年後可能性はあると考えている。
副会長	河南町でも検討会議を立ち上げて、町内の地域公共交通のあり方、どうい う方針で行くかを決めていた。たとえば、河南町でいえば基幹部は金剛バス、次 の密度の高いところは循環バスで行い、さらに需要の薄いところはデマンド 型のタクシーを使うとういうように、大まかな方針を先に検討会議で十分練 っておくべき。交通会議の法定協議会では具体化していくべきなので先に方 向性が決まっていなくて時間がかかりすぎるので先に骨格だけは作っていく というのがいいのではないだろうか。
会 長	法定協議会の場合、委員のメンバーについてはどう考えているのか。
事務局	法定協議会を設置するとなれば、骨格のメンバーは現在の検討委員会の皆様 にお願いする予定としている。
委 員	今回の会議での最終的な目標は、移動に関するニーズとして考えられる、通 勤、通学、通院、買い物、公共機関への交通、外出等すべてを満たすような公 共交通網を考えると考えてよいか。人口減少に歯止めをかけるためには通勤 通学を便利にすべき。また、高齢化につき、特に磯長台においては運転ができ ない高齢者が増加し、車がないと生活ができないようであれば転出せざるを 得ない現状となっている。太子町に住み続けるために公共交通に対する要望 はすごく強く、急務だと思う。前述の交通をすべて網羅できるような公共交 通網を求めているがどうか。
事務局	本年度については基本計画として全体の方針を検討し、来年に策定する公共 交通網形成計画に関しては、公共交通の総合計画的な位置づけとして人口減 少または高齢化の進展等を含めたすべての年齢層に対しての総合的な公共交 通の計画を目指していく。また、ご意見等を反映させながら検討していきたい。
委 員	現在、試験運行している「予約型乗合ワゴン」とは違い、町民全体、年齢関係 なく利用できる公共交通を検討しているということだが、平日しか動かない 予約型乗合ワゴンと違い、土・日・祝日、年末年始も運行し、早朝から夜間も 含め通勤・通学に間に合うような公共交通を検討していかなければならないと思

うので、よろしく願いしておく。

会 長 予約型乗合ワゴンの年齢についてはどうか。

委 員 現在、高齢介護課で試験運行している「予約型乗合ワゴン」について、対象となる方は太子町に在住の65歳以上で、なおかつ一人で乗降できる方となっており、さらに事前に登録が必要となる。

会 長 現在、高齢者を対象としている「予約型乗合ワゴン」について、年齢制限を解除して利用をするかどうかについては、今後議論をしていただきたいと考えている。

事務局 町内を運行している路線バス等やタクシーについては、現在、民間交通企業の方に運行していただいているが、今回委員としても入っていただいているので、ご意見を頂きながら進めていきたいと考えている。

事務局 予約型乗合ワゴンの走行ルートについて  
(資料3の7ページ参照) 9時10時11時と役場を出発するが、毎回ルートは決まっておらず、乗車の予約を電話で受け付けしている。例えば、11時の便に7名乗車するとすれば、どの場所で降りてどこで乗り換えを行うなど、その都度、乗車の方の予約状況に応じ、ルートを作成し運行するシステムになっている。

委 員 予約型乗合ワゴンを予約していても希望している時間通りに来ない場合や、予約型乗合ワゴンの予約をしていたが都合が悪くなったので、役場に変更の電話を入れたところ役場の方が運転手さんに変更の旨を伝えられていなくて、運転手さんと行き違いしたこともあった。  
また、別の停留場で運転手の方がしばらく待っていたが、誰も来なかったので予約型乗合ワゴンが出発するところを見たこともあった。  
電話のやりとりではこうした行き違いもあるので、このようなやり方はもったいないことをやっていると思う。停留所をたくさん作りどこにでも行けるようにするべきではないか。また、高齢者だけでなく子供も乗車できるように、停留場をたくさん作ってもらえるように検討してほしい。  
障がい者の方がバスを選ぶことができるということも大事だと思う。車イスだからバスに乗れないことなどがないようにしてあげないといけない。また、運転免許証を返納する高齢者も増えている中、そのせいで何もできなくなっ

てしまうことは、認知症にもつながってくるのではないか。できるだけ人の輪の中に入れる機会を与えてほしいと思う。年を重ねても住民全体が生き生きとしているような、太子町にならないといけないと思う。みんなで考えていく交通なので、みんなに良かったと言ってもらえるような交通にしてほしい。

委員 行政が路線バスを走らせるにあたって、太子町全体が対象なので公平にあるべきだと思う。例えば、金剛バスの路線と連携しているタクシー会社があり、その中で棲み分けをしながら行っていることはある程度説明がつくと思う。全体を対象に行うことは良いことだと思うが、その中でもそれぞれの交通について対象をきちんと棲み分けをしながら形にしていけないと話の前に進んでいかないように思う。

委員 太子町は小さい町であり、狭い道も多いので、そのような場所の人達も乗れるような方法を考えていかないと公平ではない。大きな道ばかり通っていても意味がないと思う。

委員 河南町の方の意見として、(高齢者でも)若い世代の65歳前後の人は、自分で車を運転して出かけられるけど、高齢者の方にとっては介助が必要な人もいるので、なかなかバスがきても自分でバスに乗って移動すること自体が現実的に難しいと聞いた。このような意見をたくさん聞くことがあるので、棲み分けをきちんと行って金剛バス、タクシー会社、または循環バスもその都度、利用される方の状況に応じてきちんとした棲み分けが必要だと思う。

会長 できるだけ、きめ細やかなやり方が一番良いと思うので、ご意見をいただきながら太子町の地域にあったふさわしい対応ができるように進めていただきたいと思います。

副会長 ご意見いただいた通り、棲み分けは必要であると思う。ただ、どこかで厳しい判断をしなければいけないので、今後もしご意見をいただきこの会議で詰めていきたいと思う。また、この会議で今後出てくるとは思うが、時間帯によってそれぞれ乗っている人の多さも行きたい方向も異なり、いろんなパターンがあると思う。通勤、通学であればみんな駅の方に向かう人が多いと思うし、午後であれば駅ではなく役場や公共施設に向かう人が多いと思う。時間帯によって駅に向かう便を増やし、午後は町内に向かう便を重視するなどのメリハリも必要だと思う。それは今後出てくるデータをみていけば、整理もできや

すくなるのではないかと思う。

バスを単なる乗物として利用することを考えるのではなく、目的がなくてもバスの中で誰かと会話をしながら楽しい時間を過ごすことが介護予防にもつながると考えている。

そうなると通勤時代のバスのイメージというよりも、違ったバスの使い方や楽しいバスの乗り方が見えてくるのではないかと思う。そのあたりのご意見もいただければと思う。

委 員

検討スケジュールのところで意見があるのだが、先進事例の学習の場を設けてほしい。委員会の合間に別途先進事例の学習会を行ってほしい。現在であれば河南町、香芝市、橿原市、デマンドバスについては玉城町などの例を勉強する場を作ってほしい。もう一つは、住民の方の意見を聞く場を設けてほしい。例えば畑地区などはかなり阻害されているように感じられるし、春日、山田、畑、葉室、太子、聖和台等各地区で意見を聞く場として住民懇談会を実施し、さらに住民の方の関心を深めていくべきだと思う。公共交通をうまく回すためには利用者である住民の意見が必須であると思う。

会 長

今、委員からご意見をいただいたように、専門性のある意見の中での勉強会と住民の方との懇談会を実施するということについては、事務局としてはどう考えているのか。

事務局

事務局としては先進地への視察等も検討しているが、まずある程度方向性が決まらないとどこを視察に行くか決められない。また同じような規模、交通状況の市、町を精査して、今後の方向性がある程度定まれば、視察等も検討していく予定です。現時点では来年の法定協議会を立ち上げるタイミングで、視察等をするほうがよいのではないかと考えている。

また、住民懇談会についても同じ考えだが、まずアンケートを実施し、その結果をもとに考えていきたいと思う。

今後、勉強会ということではないが、専門家である小川委員にお願いさせていただき、講演などを考えていければと思う。

会 長

住民懇談会については、出来る限りの絞ってから行う方が良いので、まずはアンケートを実施してから始めるべきだと思う。

副会長

こういった取り組みが成功するには利用者を増やす必要がある。普段、車を乗っている方も10回に1回は利用するなどマインドが変わっていくことが大

事。そのためにはいかに町民の方に関心を持っていただくかがカギとなるが、事務局としてこの会議内容について町民の方への報告等は何か考えているか。

委 員 議事録をつくってはどうか。

副会長 議事録を読んで理解される住民の方は少ないと思う。たとえば、太子町の広報が全戸配布なのであれば、会議の内容を書いた紙を1枚入れるなど考えるべきではないか。ぜひ住民の方にも関心をもって、考えるきっかけをつくってほしい。

事務局 事務局では毎回、会議概要をまとめ、配布資料等をつかってHP等で掲載をする予定としている。

ご意見をいただいた広報紙については、今後検討していく。

### (3) アンケート調査について (骨子案)

事務局 (資料6に基づき、事務局より説明)

会 長 アンケート調査票については次回の会議までに目を通してもらえる状態にするのか。

事務局 出来る限り早めに各委員に送付する予定。

委 員 アンケートの調査件数が1000件というのは太子町の世帯を網羅しているのか。全世帯に対して調査を行ってほしい。

事務局 全世帯に渡るようにアンケートを実施したいところだが、回収率等を鑑みて統計学的に有効であるとの判断から、今回は1000件とさせていただいた。

委 員 このアンケートで希望するような結果が出るのか疑問。住民の公共交通の利用実態というが、現時点で利用できない地域の意見、ニーズを拾っていないと意味がないと思う。また、通勤通学のニーズ、高齢者のニーズそれぞれで違うはずなので、1世帯で誰がアンケートに答えるかによって偏りがでるのではないか。各世帯の利用者それぞれのニーズを把握できるアンケートを作成することが必須。

利用者ヒアリング調査についてだが、路線バスの利用者に対してヒアリング

をすることだが利用者自体が少ない。なぜ利用者が少ないのかを把握しておくべきではないか。

事務局　　まずアンケートの配布は世帯ではなく1000人を対象としている。内容に関しては今回頂いた意見をもとに検討させていただく。

委　　員　　アンケートは個人名で出すのか。年齢層、地域の偏りはないか。

事務局　　人口比率をみて各地区にまんべんなく渡るようには配布する予定だが、その中で年齢層は基本的には無作為に配る予定。

委　　員　　今回は無作為にアンケートをとることだが、最終的には先ほど述べたように細かいニーズをとらえられるようなものにするべきだと思う。  
アンケートの質問方法やヒアリング調査については、今回いただいたご意見等を検討させていただき、事前に委員の皆様には資料としてお送りさせていただきます。

事務局　　昨日の新聞2紙の朝刊にあった全国世論調査については1紙が2046件、もう1紙が1088件というデータを出しており、統計学的にはこのような数量でまかなっているようだ。参考までにご紹介しておく。

会　　長　　予算的なこともあるが、アンケート内容を精査し効果的な調査を行いたいと思う。

副会長　　今回のアンケートをもとに1年間のフレームをつくる参考になるのではないかと思う。  
今後も意見はたくさん出し合ってもらい、1回目のアンケートでは重要なところはきちんと把握し、的を絞って検討して頂きたいと思う。

委　　員　　太子町が運行されるのですか。

事務局　　民間企業と町のどちらかで運行していくのかを問題にするのではなく、まずは、どのようなあり方で運行していくのかを検討していただき、そこから具体的に運行していくにあたり、どのようにすれば良いかを検討して決めさせていただきたいと思う。

- 会 長 民間企業も行政も、共存・共有できるようなかたちで進めていきたいと思う。
- 委 員 河南町でも委員会は行われており、どこかの指導で行うべきだということだが、委員会を行うだけでは形だけになるのではないか。次回でよいがどのように考えておられるか。
- 事務局 ご指摘いただいたように「絵に描いた餅」にならないように、実際の運行を想定した法定協議会を考えている。来年以降になるが、委員の皆様を検討していただいた手法で実証運行ができるように考えてきたい。
- 事務局 委員会をどこかの指導で行うという点については、議会の一般質問等でも町の公共交通のあり方についての意見も出ていたため、この委員会が発足された。
- 委 員 以前にも循環バスの話が出たが、その際は町としては経費の問題でできないとの回答だった。また金剛バスにも要望を出したが、客がいなくて走ることではできないとのことだった。こういった経緯があるので、今回は町としてどの程度の覚悟をもって取り組まれているか知りたい。
- 事務局 実際に運行されている民間事業者との協議も必要となるが、計画だけで何年も過ぎていくということがないようにしたいと考えている。
- 会 長 できればこの会議で決定したことを一歩でも二歩でも進んで住民の方々に気持ちよく乗っていただける公共交通になるよう進めていきたいと思う。
- 副会長 計画が出来た後、それで終了ということではないと思う。実証運行をし、実際運行に移しても1年、2年経てばまた利用者の需要構造が変化するので、その都度チェックし、需要構造に合わせて制度などを変えていかねばならない難しい問題だろう。また、運行しても空気を運ぶようなバスでは町民の皆さんの税金を無駄にすることになるので、町民の皆さんも行政も共に覚悟を決めて利用をしていくという合意が必要ではないかと思う。
- 委 員 アンケートについてだが、観光客ヒアリング調査というのは外から来る方のバスの利用についてだが必要か。  
また、葉室まわりの金剛バスは現時点で利用者が大変少ない。このような状態で実際に公共交通バスを運行しても無理があるのではないだろうか。その点



も含めて、住民の意見をしっかり聞いて検討していただきたい。  
この会議の資料を回覧にしてはどうか。周知を図るため全世帯が読むように努力してほしい。

事務局 周遊者へのヒアリングは太子町内での動きを丁寧に把握するため、町外から来られた方を対象に行うアンケートを考えている。町内のみなさんへのアンケートと時を同じくして、ヒアリング調査を行う予定。  
太子町の方についてはアンケートを実施させていただき、町外の方へもいろんな角度から意見を聞いた上でこの会議を進めていきたいということでご理解いただきたいと思う。

委 員 現行の予約型乗合ワゴン車にアンケート用紙はついているのか。

委 員 現在はないと思う。最初の平成26年12月にアンケートを実施させていただき、その意見は手元に置いている。

委 員 いつでも記入できるようなアンケート用紙を置いておいてほしい。予約型で人数制限があり自分が乗りたいときに乗れないという不便さがあるとの意見が多い。

委 員 26年のときに予約型ではなく、時間制にするなど様々な意見を頂いておりますが現時点では改善はされていない。

会 長 今回はこのような意見を踏まえて検討させていただきたいと思う。  
予約型乗合ワゴンも現在は1台だが、今後は2台、3台と増やしていくということも考えないといけないかもしれない。  
アンケートについても考えていただくようお願いしておく。

委 員 観光についてのニーズを把握するためのアンケートは必要か、直接関係しておられる委員の方にもご意見をいただきたい。

委 員 観光者や周遊者に向けてバスを回してもらえることはいいが、今は限られた予算を考えるとそこまで手を回せないのではないかと思う。

会 長 確かに観光についての項目がこのアンケート調査に入ることに違和感があるかもしれないが、太子町も日本遺産に認定されて、これから観光客が増えると

思う。共存共栄をする意味でもいろんな角度から人が入ってくる場合はどうすればいいのか、そうなったときに金剛バスさんとの共存のしかた、また本数が増えれば住民も乗りやすくなるなどいろんな角度から検討できるように、今回のアンケートに組み込んでいる。

事務局

アンケートについては早急に考えていきたいと思う。

(4) その他

事務局

第二回目の会議につきましては8月30日（水）の午後2時から行う予定。